

二〇二五年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(文学研究科 日本史学専攻)

(科目名:専門科目)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

2025年2月22日(土)

専門科目筆答試験(日本史学専攻) 一般入試問題(1/3)

1 次の(一)～(八)の論述問題から二題を選んで答えなさい。(選択した番号を明記すること)

- (一) 古代の官衙関連遺跡の調査・研究動向について、論述しなさい。
- (二) 『日本書紀』と『古事記』について、論述しなさい。
- (三) 異国警固番役について、論述しなさい。
- (四) 近世城下町の特色について、論述しなさい。
- (五) 枢密院について、論述しなさい。
- (六) 三教会同について、論述しなさい。
- (七) 京狩野と江戸狩野について、論述しなさい。
- (八) 地球環境の変化が石造文化財の劣化に与える影響と、その対策(保存管理および修復技術)について、論述しなさい。

二〇二五年度 大学院(修士課程) 入学試験問題

(文学研究科 日本史学専攻)

(科目名: 専門科目)

2025年2月22日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

専門科目筆答試験 (日本史学専攻) 一般入試問題 (2/3)

Ⅱ 次の(一)～(四)の史料問題から一題を選んで答えなさい。(選択した番号を明記すること)

(一) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

長徳三年七月五日、丁卯、今日大臣召云々、有所思不参入、右衛門督同不参入云々、大外記教時朝臣言命案内若送之、^①今日以大納言藤原公季為内大臣、以中納言藤原道綱為大納言、以中納言藤原懐忠為權大納言、参議藤原光為中納言、道綱去年任中納言、下官去長徳元年任中納言、而以道綱被抽任之故未得其心、若以外舅并大將所被抽取、延喜聖主以花国〔副註：大將外舅〕不被越国誼、^②延喜、天曆等例、先口^③令漏案了、已被仰知食由、只依次第、有可被任懷忠一人之気色、而被加道綱、(中略)^④万事推量、用賢之世、貴賤研精、而近臣傾執国柄、母后又暫朝事、無繼之身如何為平、(中略)延喜聖代以真信公被抽任也、又抽賢用能之時也、今以後例被抽道綱、未知其理、僅書名字、不知二者也、又觀上古例可被行者、^⑤以法師任大臣可為大納言取、豈為能例乎、

(『小左記』)

問一 傍線部①の人事について、何が問題とされているか説明しなさい。

問二 傍線部②の政治について、説明しなさい。

問三 傍線部③を読み下し文(漢字仮名交じり文)にしなさい。

問四 傍線部④について、表例をあげて説明しなさい。

(二) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

(永享六年十月)四日。晴。(中略)^①三木五郎馳参。神興已奉下山上之由有風聞。地下人念々可参之由申。而地下書續々無用事之間。為召集即成院早續鳴。晚景御書宮集云付若到。(中略)
五日。雨降。今降神興一社〔副註：客人〕。奉猿。山王島三振塔。^②山法師退散。仍不及敵討云々。諸大名軍勢引退。地下人等罷歸。
^③三条向上高城局。雖非舊居之分。先神興不及入浴。中途奉振槍之間無為也。重賢歸参。夜前至天明禁中祀候。聞白以下公家人々大崎参候。上姿下姿相分着到云々。管領〔副註：細河〕。武衛〔副註：勘解由小路〕。内裏門々四方以大勢固之。^④室町關諸大名頭々参候。諸軍勢河原辺充滿。言語通断見物云々。山法師大崎降参。(下略)

(『香聞日記』)

問一 傍線部①を転記して、訓点を施しなさい。

問二 傍線部②の「山法師」について、知るところを説明しなさい。

問三 傍線部③を読み下し文(漢字仮名交じり文)に改めなさい。

問四 傍線部④の「室町殿」について、知るところを説明しなさい。

問五 右の史料全文を、現代語訳しなさい。

二〇二五年度 大学院(修士課程) 入学試験問題

(文学研究科 日本史学専攻)

(科目名: 専門科目)

2025年2月22日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

専門科目筆答試験 (日本史学専攻) 一般入試問題 (3/3)

(三) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

松平 筑前守

①阿蘭陀人例年春江戸へ参上候処、②九州辺去秋虫附損已三付て、③阿蘭陀人通り倭道筋商人等多、取みだし候様にて見分も如何可有之候故、被差延候、四月中旬之頃長崎参附足致させ、出府候積にも可相成候、就夫、④右之頃は最早領分已告數軒へ有之間敷哉、且又阿蘭陀人往来候て領分差て難儀之品ハ無之候故、右之懸領分え承二遺候ては間も可有之候間、申越候三は不次、只今迄領分より申來候趣を以相考可被申聞候、

別紙 同文書

同断

同断

同断

同断

松平 信濃守

宗 対馬守

小笠原 遠江守

大村 河内守

毛利 主水正

(御帳書寛保集成)

問一 右の史料は、享保十八年(一七三三)三月に、江戸幕府が福岡藩主黒田綱高ら九州の諸大名に発した指令である。傍線部①について説明しなさい。

問二 傍線部②について説明しなさい。

問三 傍線部③を讀み下し文(漢字かな交じり文)にしなさい。

問四 傍線部④を現代語訳しなさい。

(四) 次の史料を読んで設問に答えなさい。

番外一

各府県下

正総副組長中

正副組長中

法王殿去ル五月中御取上之処一昨二十四日御帰山相成候条此旨組内無漏至急可相達候事

明治十二年八月廿六日

本山寺務所詰

権少教正藤山澤蔵

番外二

各府県下

正副総組長中

正副組長中

先般詮議之次第有之從前之議事行末而局廃止之儀相達候如日役員之者旨意誤認信出之次第有之且末寺僧侶へ七月四日附テ以相達候旨有之末寺僧侶之中危疑ヲ抱キ候哉二相聞之方為自然方向ヲ失候テハ万端不都合不勘ニ觀テハ去ル二十四日法王殿御帰山相成御親諭有之候如日役員之者一同敬承請書差出候上右達書之儀案ヨリ旨意不了解ニ出テ到底無謂事二候条心得違無之様可致此旨組内無漏至急可相達候事

明治十二年八月廿八日

本山寺務所詰

権少教正藤山澤蔵

(『本山日報』明治十二年四月)

問一 右は、浄土真宗本願寺派の出した通達である。番外二の通達の内容を要約しなさい。

問二 傍線部①を讀み下し文(漢字仮名交じり文)に改め、漢字にはルビをふりなさい。

問三 右の通達が出された歴史的背景について説明しなさい。